

【資料】「つくる会」歴史教科書・自由社版と扶桑社版の比較

2009年5月11日（7月2日改訂）作成：俵 義文（子どもと教科書全国ネット21事務局長）

※は俵のコメントである。これは本文を中心に調べたものである。

一、ページ数 扶桑社版 234 ページ 自由社版 240 ページ

単元（項目）数 扶桑社版 82 自由社版 84 全く同じ 27（33%）、ほとんど同じ 44（54%）

本文中の小見出し 扶桑社版 225 自由社版 231（内新設の2ページで5） 全く同じ 206（89%）

節の数 扶桑社版 17 自由社版 17 全く同じ 16（94%）、違う一つは、「日本のあけぼの」（扶桑社版）→
「日本人のあけぼの」（自由社版）

二、タイトルの変更（扶桑社版 ⇒ 自由社版）

「課題学習」⇒「歴史にゴー！」

「読み物コラム」⇒「ご先祖様のプレゼント」「歴史の両側」

「人物コラム」⇒「歴史のこの人」

「歴史の名場面」⇒「その日、歴史は」

「各章のまとめ」⇒「歴史の豆辞典」（事項、年代、簡単な解説）

「考えてみよう」「やってみよう」⇒「ここがポイント」

三、順番や節をまたいだ移動（扶桑社版 ⇒ 自由社版）

1. 第2章第1節 20 元寇 ⇒ 2章第1節 22 元の襲来とその後の鎌倉幕府
扶桑社版では鎌倉文化の前で元寇を扱っていたが、この順番を鎌倉文化の後に入れ替え。
2. 第3章第4節 40 欧米諸国の接近 ⇒ 4章第1節 44 欧米諸国のあらたな接近
3. 第4章第3節 58 日露戦争 ⇒ 4章第4節 60 国家の興廃をかけた日露戦争
このため、「その日、歴史は 日本海海戦」もこの節に移動。また、日本の産業革命を扱う 59 近代産業の発展とその背景が日露戦争の前で扱うようになった。
4. 第4章第3節 59 世界列強の仲間入りをした日本 ⇒ 4章第4節 61 世界列強の仲間入りをした日本

四、新しくしたもの

1. 導入に「そこに眠っていた歴史」を新設（「大和」は1ページ、他は2ページ）
日本にも旧石器時代があった！ アマチュア研究家の若者による歴史的大発見
洞窟穴から 1300 年前の星座を発見！ 高松塚とキトラ古墳
出雲大社 巨大空中神殿の謎
東シナ海に沈んだ「大和」
2. 扶桑社版の「序章 歴史への招待」を「序文 歴史への招待」とし、「歴史を学ぶとは」を全く同文でここに移す。序章は「歴史を調べる～時代の流れの中でどう変わったか？」とし、扶桑社版の「課題学習 事物の起源調べ～身近な歴史を調べてみよう」「課題学習 歴史しんぶんをつくろうー歴史の現場をスクープ！」「歴史のロールプレインをしてみよう」に替えて、「クラスの仲間と歴史を調べよう」「自分たちが調べた歴史を発表しよう」（4～10P）にしている。内容は、「たとえば『女性』は？」（「歴史のなかで女性はどう生きたのか」と「たとえば『橋』は？」（「東京・日本橋はどのような橋か？」）をテーマに調べる、というもの。
3. 各章の扉を新しくして、すべて女性の人形などの写真を採用している。
※ 藤岡氏が『史』09年3月号で、自由社版の特徴の5つの内の1つに「女性の登場」を挙げているのは、前述「2」の「歴史のなかで女性はどう生きたのか」とこの扉のことである。私たちが、扶

桑社版には女性や子どもがほとんど取り上げられていない、と批判したことを受けたものと思われる。

4. 第1節「日本人のあけぼの」の扶桑社版の「1日本人はどこから来たか」を「01人類の進化と祖先の登場」と「02日本人はどこから来たか」の2つに分けた。「01人類の進化と祖先の登場」はほぼ新しくした内容である。

※「01人類の進化と祖先の登場」で書いていることは、他社にはあつて扶桑社版になかった内容。

5. 「歴史にゴー！」 扶桑社版「課題学習」の内容を全面改訂。
こんなに豊かな縄文時代 長野の尖石縄文遺跡群 (18～19 P)
弥生のムラを訪ねよう 登呂と吉野ヶ里 (24～25 P)
古墳はどうやって造ったの? (30 P) (「課題学習」の「古墳探検」を改訂)
シルクロードと仏教美術 (52～53 P)
これぞ平安の美 (58～59 P)
一度は本物を見たい 鎌倉文化と室町文化 (84～85 P)
遠州と光悦 生活デザイナーの草分け 江戸初期に活躍した茶人たち (102～103 P)
江戸の技術～田中久重 (126～127 P)
辰野金吾と洋館建築 (177 P)
昭和天皇のお言葉 (227 P)
6. 「ご先祖様のプレゼント」に変更した中の1つ
江戸の町へタイムスリップ (122 P)
7. 5章第4節に「83戦前、戦後の昭和の文化」を新設 (222～223P)。これは「課題学習 昭和の文化調べ」を本文に変更したもの。
8. 扶桑社版は「歴史を学んで」が最後だが、「歴史を学んで」の後に「歴史とつながる今 エルトゥールル号事件」(230～231 P)と「歴史と出会うには」(232～233 P)を新設。第4章第3節「59世界列強の仲間入りをした日本」のところにあった「人物コラム」「台湾の開発をした八田與一」を、「台湾に巨大ダムをつくった八田與一」として「歴史とつながる今 エルトゥールル号事件」のところに移した。しかし、本文とは何らの関係もない。
9. 扶桑社版は「さくいん」の後に「調べ学習に インターネットを役立てよう」があるが、それを「あなた自身の 歴史タイムカプセル」に替えた。これは、「この教科書で学んだ日本の歴史へのあなたの感想を」書かせるものである。

五、全面または大幅な改訂を行ったもの

1. 1章第1節 02日本人はどこから来たか (14～15 P)
2. 1章第3節 15飛鳥・白鳳・天平の文化 (48～49 P) (全面改訂)
3. 1章第3節 「その日、歴史は」 東大寺の大仏開眼 (50～51 P) (全面改訂)
4. 1章第4節 17密教の伝来と国風文化 (56～57 P) (「平安の文化」を全面改訂)
5. 1章第4節 「歴史のこの人」 紫式部と源氏物語 (61 P) (全面改訂)
6. 2章第1節 「歴史のこの人」 源頼朝と鎌倉武士 (70～71 P)
7. 2章第1節 21大衆や武家の仏教と鎌倉文化 (72～73 P) (全面改訂)
8. 2章第2節 26和風を完成させた室町の文化 (82～83 P) (全面改訂)
9. 3章第1節 32黄金と「侘び」の桃山文化 (98～99 P) (全面改訂)
10. 3章第3節 38綱吉の政司と元禄の町人文化 (112～113 P)
11. 3章第3節 「歴史のこの人」 二宮尊徳 (115 P)
12. 3章第4節 41江戸の町人と化政文化 (120～121 P) (全面改訂)
13. 4章第1節 43市民革命と産業革命 (130～131 P) (扶桑社版の「アメリカの独立とフランス革命」

を「市民革命」の見出しにして「ヨーロッパの産業革命」と順番を入れ替えて全面改訂。「ヨーロッパの産業革命」は最後の2行だけを改訂)

14. 4章第3節 55 条約改正への苦闘 (156～157 P)
15. 4章第4節 62 明治の文化の花開く (174～175 P) (全面改訂)
16. 5章第1節 67 日米関係とワシントン会議 (188～189 P)
17. 5章第3節 「歴史の両側」東京裁判 (215P)
18. 5章第3節 81 米ソ冷戦下の世界と日本 (218～219P) 前半の「冷戦の進行」

六、小幅な改訂を行ったもの

1. かつて草原だった日本列島は、たちまち、全土が緑の森林でおおわれるようになった。→いままで草原だった日本列島に樹木がふえ、やがて山やまが緑の森林におおわれるようになった。(16 P)
2. …氷河時代が終わると、地球は温暖化した。気候の変化によって…→…氷河時代が終わると、気候の変化によって… (20 P)
3. エジプトやアジアの大河の周辺…→アフリカやアジアの大河の周辺… (20 P)
4. 当時の中国の歴史書には、3世紀前半ごろまでの日本について書かれた「魏志倭人伝」とよばれる記述がある。→当時の中国の歴史書『三国志』には、3世紀前半ごろまでの日本について書かれた部分がある。「魏志倭人伝」とよばれる記述である。(26 P)
5. (小見出しの変更) 中国を中心とした国際関係 → 中国の皇帝と中華秩序 (27 P)
6. 645年、中大兄皇子は宮廷で入鹿を討ち…→中大兄皇子は宮廷で入鹿を討ち… (39 P)
7. 平城京に都が置かれていた約70年間を、奈良時代という。→これよりあと、京都に都がうつるまでのおよそ80年間を、奈良時代という。(42 P)
 - * 申請図書は扶桑社版と同じだったが、64Pの「第1章のまとめ」で「710~94年」を奈良時代としたために、両者の記述が「相互に矛盾している」という検定意見によって修正。
8. 保元の乱ののち、源氏と平氏の対立が深まり、1159(平治元)年にふたたび戦いがおこった(平治の乱)。この乱で、平清盛が源義朝を破り、平氏が武士の中で最も有力な勢力となった。→保元の乱ののち、勝者の後白河天皇(のちに上皇)を支えた貴族の間の勢力争いから、1159(平治元)年にふたたび戦いが起こり(平治の乱)、その中で、平清盛が源義朝を破って、平氏が武士の中で最も有力な勢力となった。(66 P)
 - * 申請図書は扶桑社版とほとんど同じで、「源氏と平氏の対立が深まり」を「藤原氏一門の中の対立から」に、「この乱で」を「この乱の最後に」と改訂したのに対して、「平治の乱の性格について誤解するおそれのある表現である」という検定意見がつき修正。
9. なかでも、平治の乱で討たれた源義朝の子・頼朝の勢力は強力だった。頼朝は、乱のあと、平氏によって伊豆(静岡県)に流されていたが、鎌倉を拠点として関東の武士と主従関係を結び、支配を固めた。そして、朝廷の命を受けて…→平治の乱で討たれた源義朝の子・頼朝は鎌倉を拠点として関東の武士と主従関係を結び、しだいに力をたくわえていたが、朝廷の命を受けて… (67 P)
 - * 申請図書は扶桑社版と同じだったが、「8」の修正のために行数調整で修正した。
10. その後、義経が頼朝と対立し、平泉(岩手県)の奥州藤原氏のもとにのがれると、頼朝はその勢力を攻めほろぼして、東北地方も支配下に入れた。→一方、源義経が兄である頼朝と対立し、平泉(岩手県)の奥州藤原氏のもとにのがれると、頼朝はその勢力を攻めほろぼして、東北地方も支配下に入れた。(68 P)
11. モンゴルの高原に、→モンゴル(蒙古)の高原に、(74 P)
12. 元との戦いで、→元寇との戦いで、(75 P)
13. 銅銭…などを明から輸入して、→明から銅銭…などを輸入して、(79 P)
14. 信長は鉄砲の導入にも積極的で、当時、最強といわれた甲斐(山梨県)の武田氏の軍勢を、→信長は

- 鉄砲の導入にも積極的で、1575年、当時、最強といわれた甲斐（山梨県）の武田氏の軍勢を、（94 P）
15. この間、信長は京都に近い…その翌年、信長は京都に近い…（94 P）
 16. 貿易による利益を重視し、→貿易による利益を重視して、（97 P）
 17. それらの窓口を通して他民族との貿易も行われ、→それらの窓口を通して他国との貿易も行われ、（107P）
 18. 皮革製品や細工物の製造に…→皮革製品などの製造に…（108P）
 19. 各地では、染料のもととなる藍や紅花、麻、綿、菜種などの商品作物の栽培が広まり、養蚕もさかんになった。→農村における商品作物の栽培もさかんになり、染料の藍や紅花、油をとる菜種、織物の麻が生産された。18世紀には綿の栽培が全国に広がり、養蚕も普及した。（110P）
 20. 鉱業では、佐渡（新潟県）の金山や生野（兵庫県）の銀山、足尾（栃木県）の銅山が開発された。生産された金・銀・銅からは貨幣がつくられ全国に流通したほか、ヨーロッパに輸出された。→鉱業の開発も進み、佐渡（新潟県）の金山、生野（兵庫県）の銀山、足尾（栃木県）や別子（愛媛県）の銅山が有名になった。幕府の統制のもと、金・銀・銅で貨幣がつくられ、銀・銅は国外に輸出された。（111P）
 21. その他、酒造、漆器、陶器、鋳物などの産業も発達し、各地で特産品がつくられるようになった。→削除（111P）
 22. 集められた物産の多くは、→大阪に集められた物産の多くは、（111P）
 23. 元禄時代の佐賀藩で編纂され、武士の心得を説いた『葉隠』という書物には、「武士道とは死ぬことと見つけたり」という一文がある。赤穂事件にも見られるように、武士は主君への忠義のために死を選ぶことがある。だが、この言葉は、単純に死を求め、死を美化しているものではない。死ぬ覚悟をもって主君によく仕え職務をまっとうして生きることを求めているのである。だから、たとえ主君の命令でも、まちがっていると思ったときはどこまでもまちがいをただそうとするのが忠義の道であると説かれていた。→忠義とは主君に対してまごころをもって仕えることである。忠義は強制されたものではなく自発的なものでなければならず、時には主君のために命を捨てる覚悟が必要だった。／しかし、忠義とは主君個人のためだけでなく、主君をふくむお家の安泰のために尽くすことだったから、たとえ主君の命令でも、まちがっていると思ったときは、どこまでも間違いを正そうとするのが忠義の道であるとされていた。（114P）
* 申請図書は扶桑社版とほとんど同じで、「赤穂事件にも見られるように、武士は主君への忠義のために死を選ぶことがある。」を「赤穂事件にも見られるように」を削除し、「武士は主君のために死を選ぶことがある。」としたところ、『葉隠』の内容について誤解するおそれのある表現である」という検定意見でこの部分を全文修正した。
 24. …都市の農民を農村に帰し、→…都市の農村出身者を農村に帰そうとし、（119P）
 25. 町人や農民→町人や百姓（124P）
 26. 町人たちに勤勉と儉約を説いた…→町人に勤勉と儉約を説いた…（124P）
 27. 産業革命と市民革命を達成したヨーロッパは、世界の他の地域よりも優位に立ち、その後、世界中に進出するようになった。→市民革命と産業革命を達成したヨーロッパの国々は、世界の他の地域よりも優位に立ち、世界中に進出する動きを加速させた。（131P）
 28. インド兵（セポイ）の反乱→セポイ（インド兵）の反乱（134P）
 29. 東アジアでは約250年間、平和な時代が続いた。→東アジアでは、200年以上も、平和な時代が続いた。（134P）
* 申請図書は扶桑社版と同じだったが、「期間が不正確である」という検定意見で修正。
 30. こうして、中国はしだいに半植民地の状態に置かれるようになった。→1842年、清は不平等な南京条約に調印した。このように、イギリスはしだいに中国を半植民地同然に扱うようになった。（135P）
* 申請図書は扶桑社版のこの部分を「このように、中国はしだいにイギリスにしばり取られる一方の存在となっていく」と改訂したが、「アヘン戦争後の国際関係における中国の状況について誤解するお

そのある表現である」という検定意見で修正。

31. 約 260 年にわたり平和と安定を楽しんでいた鎖国下の日本…→約 200 年にわたり平和と安定を楽しんでいた鎖国下の日本… (136P)

※ 申請図書は扶桑社版と同じだったが、「期間が不正確である」という検定意見で修正。

32. …国論を統一しようと考えた。しかし、大名の意見の中にも、→…国論を統一しようと考えた。外交について、外様大名は全く発言の機会を許されなかったから、これは画期的なことだった。しかし、大名の意見の中にも、(136P)

33. …長州藩を攻め、これを降伏させた(長州征伐)。しかし、長州藩では、高杉晋作が幕府に屈服した藩政府に反乱をおこし、木戸孝允らとともに藩の主導権をうばい返したので、長州藩はふたたび幕府批判の立場に転じた。／いっぽう、薩摩藩では、大久保利通や西郷隆盛らが藩政の実権をにぎり、薩英戦争の経験から攘夷をあきらめて軍備の強化に努めた。そして、長州藩を京都から追放して勢力を回復した幕府と対決する姿勢を強めていった。→…長州藩を攻め、これを降伏させた(第一次長州征伐)。いっぽう、薩摩藩は長州藩に代わって朝廷への影響力を高めた。／長州藩では、高杉晋作が幕府に屈服した藩政府に反乱をおこし、木戸孝允らとともに藩の主導権をうばい返したので、長州藩はふたたび幕府批判の立場に転じた。／薩摩藩では、西郷隆盛や大久保利通らが藩政の実権をにぎり、薩英戦争の経験から攘夷をあきらめて軍備の強化に努めた。(140P)

※ 申請図書は扶桑社版とほとんど同じで、「そして、長州藩を京都から追放して勢力を回復した幕府と対決する姿勢を強めていった」を「そして、長州藩を京都から追放して勢力を回復すると、薩摩藩は幕府と対決する姿勢を強めていった」と改訂したのに対して、「説明不足で理解しがたい表現である」という検定意見で修正。

34. 1866 年、先代の将軍が死去したあと、徳川慶喜が第 15 代将軍となった。朝廷では、幕府に好意的だった孝明天皇が亡くなり、14 歳の明治天皇が即位して、…。→1866 年、先代の将軍が死去したあと、徳川慶喜が第 15 代将軍となった。朝廷では、幕府に好意的だった孝明天皇が突然亡くなり、翌年、14 歳の明治天皇が即位して、…。(140-141P)

※ 申請図書は扶桑社版と同じだったが、「明治天皇が 1866 年に即位したように誤解するおそれのある表現である」という検定意見で修正。

35. 征夷大将軍の地位を…→政権を… (141P)

36. これを大政奉還という。慶喜は天皇のもとで諸大名が集まる会議をつくり、その中で最大の大名である徳川家の実質的な支配をつづけることができると考えていた。／慶喜の意図を見ぬいた薩摩藩の西郷隆盛や大久保利通は、公家の岩倉具視や木戸孝允らと結んで、慶喜追放と領地没収を朝廷に働きかけた。／その結果、1867 年の暮れ、朝廷は王政復古の号令を発し、古代建国の出発点に立ちもどって、天皇を中心とした新政府を組織することを宣言した。こうして、約 260 年にわたった徳川幕府は滅亡した。それは、武士が政権をにぎる時代の終わりでもあった。→これを大政奉還という。この慶喜の思いきった決断のうらには、天皇のもとで諸大名が集まる会議をつくり、その中で最大の大名である徳川家が議長につく可能性も考えられていた。／いっぽう、慶喜の意図を見ぬいた薩摩藩の西郷隆盛や大久保利通は、公家の岩倉具視や木戸孝允らと結んで、朝廷の実権を握る名門の公家を味方に引き入れる工作を、たくみにおこなった。その結果、1867 年の暮れ、朝廷は王政復古の号令を発し、古代建国の出発点に立ちもどって、天皇を中心とした新政府を組織することを宣言した。彼らは続いて朝廷に慶喜の官位と領地の返上(辞官納地)を命令させた。こうして、約 260 年にわたった徳川幕府の政治は終わった。(141P)

※ 申請図書は扶桑社版とほとんど同じで、「慶喜は」を「この思いきった決断のうらには」、「徳川家の実質的な支配をつづけることができると考えていた」を「徳川家が議長役につく可能性も考えられていた」に、「慶喜追放と領地没収を朝廷に働きかけた」を「朝廷に、慶喜の官位(将軍職)と領地の返上(辞官納地)も命令させた」に、「徳川幕府は滅亡した」を「徳川幕府の政治は終わった」に改訂し

- たのに対して、「辞官納地と王政復古の大号令の前後関係が不正確である」という検定意見で修正。
37. 1800年に地球の陸地の約35%を支配していた欧米列強は強大な軍事力にものをいわせて植民地を広げ、1914年、→1800年には地球の陸地の約35%を支配していた欧米列強は、1914年、(148P)
 38. そこで彼らは、→そこで岩倉らは、(153P)
 39. これに怒った西郷と、江藤新平、板垣退助らは→これに怒った西郷と、板垣退助、江藤新平らは(153P)
 40. 兵を挙げ、鎮圧された。→兵を挙げたが、次つぎに鎮圧された。(153P)
 41. 実現にいたらなかった。→実現しなかった。(158P)
 42. 近代日本人の人格の背骨をなすものとなった。→近代日本人の生き方に大きな影響を与えた。(161P)
 43. 明治政府では、→明治新政府では、(162P)
 44. 1885年には、45歳で初代の総理大臣に就任した。／その後の数年間、伊藤は多くの人々と相談しながら、→1885(明治18)年に、45歳で初代の総理大臣に就任した伊藤は、その後数年間、多くの人々と相談しながら、(162P)
 45. 「眠れる獅子」とよばれてその底力をおそれられていた清は、→日清戦争は、欧米流の近代国家として出発した日本と伝統的な中華秩序との対決だった。「眠れる獅子」とよばれてその底力をおそれられていた清は、(165P)
 46. 交通網の拡充だった。→交通網の拡充であった。(166P)
 47. 日本は韓国に韓国統監府を置いて…→日本は日韓協約によって韓国に韓国統監府を置いて…(172P)
 48. 日本政府は、日本の安全と満州の権益を防衛するために、→日本政府は、この先、日本の安全と満州の権益を守るためには、(172P)
 49. 日本艦隊は、午後2時5分、8000mまで近づいたところで敵艦隊の眼前で左に大転回し、敵の進路に立ちふさがった。日本艦隊は、ロシアの司令長官が載る旗艦スワロフをはじめ、先頭に行く戦艦に集中砲火を加えた。→日本艦隊は、午後2時5分、8,000mまで近づいたところで左に大旋回し、敵艦隊とならんで進みながら、ロシアの司令長官が載る旗艦スワロフをはじめ、先頭に行く戦艦に集中砲火を加えた。(171P)
 50. なお、同じく日露戦争で活躍した陸軍大将の乃木希典は、…略…。明治の日本にも、敗者の名誉を重んじる武士道は生きていたのである。→全文削除(171P)
 51. この土地調査事業によって、→これらの近代化事業によって、(173P)
 52. 日本語教育など同化政策が進められたので、→その他にも朝鮮の伝統を無視したさまざまな同化政策を進めたので、(173P)
 53. 日本は、日清戦争のあと領土とした台湾でも、住民の抵抗をおさえて台湾総督府を置き、現地の開発を行った。→この一文は、扶桑社版では「中華民国の成立」の冒頭にあったが、それを、「韓国併合」の最後に移動した。(173P)
 54. 強力に軍事力を拡大して、海外発展に努めた。→急速に軍事力を拡大して、海外進出に努めた。(180P)
 55. サラエボで、親露的なセルビアの一青年に…→サラエボを訪問中に、ロシアに心を寄せるセルビアの一青年に…(180P)
 56. 日本は駆逐艦を地中海に派遣した。→日本は駆逐艦の艦隊を地中海に派遣して、護衛にあたった。(181P)
 57. いっぽう、中国は青島からの日本軍の撤退を求めてきた。それに対し日本は、1915(大正4)年、ドイツがもっていた山東省の権益を引き継ぎ、関東州の租借期限の延長などを中国に要求した。中国側は、日本人顧問の受け入れなど、秘密とされた要求条項(条項事項)の内容を、列強の介入を期待して

内外に知らせ、「二一か条要求」と名づけた。イギリスとアメリカは日本に抗議したが、日本は最後通告を發して、希望条項をのぞいて受け入れさせたので、中国国内の反日世論は高まった。→中国は、青島を占領した日本軍の撤退を求めた。日本は、逆に中国に対して、1915（大正4）年、ドイツが山東省に持っていた權益を日本に譲ることなどを要求した。日本が出した5項目の中には日本人顧問の受け入れなど、日本側の希望条項に過ぎないものもあった。中国政府は、列強の介入を期待して、交渉中は秘密、とされていた5項目を「二一か条要求」と名付けて公表した。英米両国は日本に抗議したが、日本は希望条項以外は受け入れさせたので、中国の反日世論は高まった。（181P）

58. 皇族一族をはじめ、→皇族一族と、（182P）
59. 知識人らが多数、処刑された。→知識人らが数しれないほど、処刑された。
60. 戦争は4年も続いた。→戦争は4年ものあいだ続いた。（183P）
61. この戦争は、過去の戦争と…→そして、この戦争は、過去の戦争と…（183P）
62. 第一次世界大戦は、1918年、→第一次世界大戦は1918年、（183P）
63. 相互に殺戮しあったことは、→たがいに民間人まで殺しあったことは、（183P）
64. パリ講和会議で、アメリカのウィルソン大統領は、講和のための14か条の原則を提唱し、→アメリカのウィルソン大統領は、講和のための14か条の原則を提唱し、パリ講和会議で、（184P）
※ 申請図書は扶桑社版と同じだったが、「14か条提唱の前後関係が誤りである」という検定意見で修正。
65. このとき、朝鮮総督府は武力でこれを弾圧したが、その後は武力でおさえつける統治の仕方を変更した。→朝鮮総督府は武力でこれを鎮圧したが、以後は統治の方針を文化統治（文治）政策に変更し、のちに、日本との一体化を進めていくこととなった。（185P）
66. その後は非政党内閣が…→その後、非政党内閣が…（187P）
67. （小見出しの変更）新しい学問と文学→新しい学問と文学・芸術（190P）
68. …新劇もさかんになった。→…新劇もさかんになった。（この後に追加）絵画では日本の風景を雄大に描く横山大観や女流画家で美人画を描き続ける上村松園などの活躍が大衆の注目を集めた。（190P）
69. デパートの開店、→デパートの開業、（191P）
70. 集団化を進め、→集団化を進める一方、（192P）
71. 数百万人の人々を処刑した。→莫大な数の人々を処刑した。（192P）
72. 清朝滅亡後の中国では、→日本が年号を「昭和」と改めたころ、中国では、（194P）
73. とくにユダヤ人に対しては、徹底的な迫害を行った。→削除（193P）
74. 抗日運動もおこった。→一方で大小さまざまな抗日運動も絶えることがなかった。（197P）
75. 彼らは大臣などを殺害し、→彼らは大臣など要職者や警護の警官らを殺害し、（198P）
76. 首謀者は厳刑に処された。→指導者らは死刑に処された。（198P）
77. 中国では、蒋介石が率いる…→同じころ中国では、蒋介石が率いる…（198P）
78. こうして、以後8年間にわたる日中戦争が始まった。／同年8月、外国の權益が集中する上海で、二人の日本人将兵が射殺される事件がおき、これをきっかけに日中間の衝突が拡大した。日本軍は国民党政府の首都南京を落とせば、蒋介石は降伏するだろうと考え、12月、南京を占領した。しかし、蒋介石は奥地の重慶に首都を移し、抗戦を続けた。→同年8月、外国の權益が集中する上海で二人の日本人将兵が射殺される事件がおき、ここから日中間の衝突がいきよに拡大した。こうして、日中戦争（日本は当時「支那事変」と呼んだ）が始まった。／日本軍は国民党政府の首都南京を落とせば、蒋介石は降伏すると考え、12月、南京を占領した。しかし、蒋介石は奥地の重慶に首都を移し、抗戦を続けた。（199P）
79. 他方で、高い関税をかけて圏外の商品をしめ出す政策をとっていた。→外国の商品に高い関税をかけて国内の市場からしめ出す政策をとりはじめた。（200P）
80. アメリカは、門戸開放、→国内の不況が長引くアメリカは、門戸開放、（201P）
81. …効用はなかった。しかも、イギリスを支援するアメリカとの対立を深める要因となった。→…効

用はなかったばかりか、イギリスを支援するアメリカとの関係を決定的に悪化させる要因となった。
(202P)

82. 関東軍は → 関東軍参謀長の東条英機は (203P)
83. 樋口の処置を認め、 → 部下の処置を認め、 (203P)
84. リトアニア共和国に → リトアニアに (203P)
85. 数千人のユダヤ人 → 1万1千人のユダヤ人 (203P)
86. アメリカにのがれようと… → 安全な国に逃れようと… (203P)
87. 日本はドイツと同盟を結ぶ関係にあったが、外交官杉浦千畝は、日本入国のビザを手書きで発給し、手が腫れあがるまで徹夜で書き続けて、6千人のユダヤ人の命を救った。 → 当時、日本の外交はドイツ友好関係を大切にしていたが、外交官杉浦千畝は、日本入国のビザを発給することを決断し、手が腫れあがるまで徹夜で書き続けて6000人のユダヤ人を合法的に出国させ、彼らの命を救った。(203P)
* 申請図書は扶桑社版とほとんど同じで、「日本はドイツと同盟を結ぶ関係にあったが」を「ドイツからの干渉にひるまず」と改訂したのに対して、「不正確である」という検定意見で修正。
88. たたえられた。 → 表彰された。(203P)
89. …状況が生まれ、ABCD 包囲網とよばれた。 → …状況が生まれた。日本の新聞はこれを ABCD 包囲網と呼んで国民の反発を誘った。(203P)
90. 日本の陸海軍はサイゴン(現在のホーチミン)に入った。 → 日本の陸海軍はフランス領インドシナの首都サイゴン(現在のホーチミン)に入った。(203P)
91. この戦争を大東亜戦争と命名した。 → この戦争を「大東亜戦争」と命名した。(204P)
92. 日本の緒戦の勝利はめざましかった。 → 戦争の最初の半年間、日本の勝利はめざましかった。(204P)
93. 日本の将兵は敢闘精神を発揮してよく戦った。 → 日本の将兵は、この戦いに国の将来がかかっている、と信じてよく戦った。(205P)
94. 日本軍の捕虜となったイギリス軍インド人兵士… → もともと親日国だったタイに加えてシンガポールなどで日本軍の捕虜となったイギリス軍インド人兵士… (206P)
95. この会議以降、日本は、欧米勢力を排除したアジア人による大東亜共栄圏の建設を、戦争の名目としてより明確にかかげるようになった。 → この会議以降、日本は、「欧米勢力を排除したアジア人による大東亜共栄圏の建設」を、戦争の表向きの目的として強調するようになった。
* 申請図書は扶桑社版と同じで、1か所「戦争の名目」を「戦争の目的」としたのに対して、『大東亜会議』について誤解するおそれのある表現である」という検定意見で修正。
96. 日本軍の侵攻により… → 日本の侵攻により… (207P)
97. 神社参拝などをしたことに… → 神社参拝を強いたことに… (207P)
98. のちに日本が敗戦し撤退したあと、これらの植民地は、ほぼ十数年のあいだに次々と自力で独立達成した。日本軍の兵士の中には、現地に残って独立戦争に参加する者もいた。日本の南方進出は、もともと資源の獲得を目的としたものだったが、アジア諸国で始まっていた独立の動きを早める一つのきっかけともなった。 → 日本の南方進出は、「アジアの解放」という名目をかかげながらも、自国のための資源の獲得を目的としたものだったが、のちに日本が敗戦で撤退したあと、これらの植民地は、ほぼ十数年の間に次々と自力で独立国となった。日本軍の将兵のなかには、敗戦のあと現地に残り、これら植民地の独立勢力に加わった者もあった。(207P)
* 申請図書は扶桑社版とほぼ同じ内容で、記述の順番を入れ替え、部分的に言葉を変え、「アジア諸国で始まっていた独立の動きを早める一つのきっかけともなった」を削除していた。これに対して、「アジア諸国と日本の南方進出との関係について誤解するおそれのある表現である」という検定意見で修正。
99. 日本も日中戦争の勃発とともに、物資、経済、産業、交通などすべてを政府が統制し運用する総動員

体制をつくった。→日本で日中戦争の勃発とともに、物資、経済、産業、交通などすべてを政府が統制し運用する総動員体制をつくられた。(208P)

※「日本も…つくった。」を「日本で…つくられた。」にしているが、これは「日本でも」「日本では」「日本も」としないと日本語の文としておかしい。検定の見落としではないか。

100. 朝鮮人を日本人化する…→朝鮮人や台湾人を日本人化する… (208P)

101. きびしい条件のもとで働かされた。→過酷な条件や待遇のもとで働かされた。(208P)

102. 物的にあらゆるものが不足し、→あらゆる物資が不足し、(208P)

103. 生活物資は窮乏をきわめた。→生活用品は窮乏をきわめた。(209P)

104. …サイパン島が陥落し、制空権をにぎった米軍は、同年末から爆撃機 B29 による日本本土への空襲を開始した。→…サイパン島が陥落し、ここから日本本土を空襲できるようになったアメリカ軍は、同年末から爆撃機 B29 による無差別爆撃を開始した。(209P)

105. 4月、米軍は沖縄本島に上陸し、日本軍の死者約9万4千人、一般住民の死者9万4千人を出す戦闘の末、2か月半のちに沖縄を占領した。→4月、アメリカ軍は沖縄本島に上陸し、ついに陸上の戦いも日本の国土に及んだ。日本軍の死者約9万4千人、一般住民の死者9万4千人を出す戦闘の末、2か月半のちに沖縄を占領した(沖縄戦)。(209P)

※1945年2月に硫黄島(東京都小笠原諸島)での地上戦がはじまっていますので、これは事実と反する誤り。検定の見落としであろう。

106. ベルリンは廃墟となり、5月、ドイツは無条件降伏した。→ドイツ政府は崩壊した。5月、ドイツ軍は無条件降伏した。(210P)

107. 大戦全体の戦死者は2200万人、負傷者は3400万人とも推定されている。→大戦全体での死者は数千万人にのぼると推定されている。(211P)

108. 戦争犯罪者(戦犯)であるとして裁かれた。→戦争犯罪者(戦犯)であるとして7人が死刑判決を受けるなどそれぞれに裁かれた。(212P)

109. 憲法に多少の修正を…→明治憲法に多少の修正を… (213P)

110. 政府はGHQが示した憲法草案の内容に衝撃を受けたが、それを拒否した場合、天皇の地位が脅かされるおそれがあるので、やむをえず受け入れた。→政府はGHQが示した憲法草案の内容に衝撃を受けたが、それを拒否した場合、天皇の地位の存続ができなくなるおそれがあると考え、やむをえず受け入れた。(213P)

111. …戦争の放棄と、そのための戦力をもたないことを定めた。→…戦争の放棄と、そのための戦力をもたないことを定めたことでは、世界でほかに例を見ないものとなった。憲法改正後の諸改革も進められた。(213P)

※「歴史の豆辞典5章のまとめ」(228P)の「日本国憲法公布」で、「敗戦後、アメリカ軍を中心にした日本占領の連合軍は、自ら作成した憲法草案を示し、憲法改正を求めた。政府はやむをえずこれ受け入れ、改正を公布した。」と書いたのに対し、「学習指導要領の内容(5)キ「第二次世界大戦後、国際社会に復帰するまでの我が国の民主化と再建の過程…について、…理解させる」に照らして、日本国憲法と現代の日本との関係について説明不足であり、扱いが不適切である。」という検定意見が付き、「敗戦後、アメリカを中心とした日本占領の連合軍は、自ら作成した憲法草案を示した。政府はこれ受け入れ、新憲法を公布し、前後して婦人参政権、農地改革などの『戦後改革』の諸政策を進めた。」と修正した。

「107」「108」は、扶桑社版と全く同じであったが、これに関連して修正した。

112. 1906年にオランダで締結されたハーグ陸戦法規は、→1907年にオランダで締結されたハーグ陸戦法規は、

※扶桑社版は「1906年」となっている。1907年が正しいのではないか。検定の見落とししか。

113. 戦争犯罪として禁止された。しかし、→戦争犯罪として禁止された。一方、軍服を着ていない者に

武器を持たせたり戦闘に参加させることは禁じられ、それを捕らえた側にはスパイやゲリラとして処刑することも認められていた。しかし、(214P)

※ これを追加したのは南京事件での住民虐殺を「便衣兵狩り」として正当化するためか。

114. このルールははなはだしく破られた。→ このルールはしばしば破られた。(214P)
115. 殺害や虐待をいっさいおこななかった国はなかった。→ 殺害や虐待をいっさいしなかった国はなかった。(214P)
116. 敵国の兵士や民間人に対して、不当な殺害や虐待を行った。→ 敵国の兵士や非武装の民間人に対しての不当な殺害や虐待をおこなって多大な惨禍をのこしている。(214P)
117. アメリカが東京大空襲をはじめとする多数の都市への無差別爆撃を行い、広島と長崎に原爆を投下した。→ アメリカが東京大空襲をはじめとする日本やドイツの多数の都市への無差別爆撃を行い、広島と長崎には原爆を投下し民間人を無差別に殺した。(214P)
118. また、ナチスは、自国の障害者や病人を注射などで安楽死させた。→ ナチスはまた、自国の障害者や病人を注射などで薬殺し、ジプシーとよばれた移動生活者も大量に殺した。(214P)
119. のちには政治犯の数を地域別に割り当てて、強制収容所に送った。→ 多くの政治犯とその家族が強制収容所に送られたが、そのほとんどは生きて戻らなかった。(214P)
120. 被害をもたらしたが、その一方で、ファシズムと共産主義が、→ 被害をもたらしたが、そればかりでなく、ファシズムと共産主義が、(214P)
121. 自由主義陣営の強力な一員として…→ 自由主義陣営の一員、として… (217P)
122. …反撃したが、戦況は一進一退をくり返し、戦争は…→…反撃したが、北朝鮮側には中国義勇軍も加わり戦況は一進一退をくり返した。戦争は… (217P)
123. 多くの物資を供給し、日本経済は息を吹き返した(朝鮮特需)。→ 多くの物資を供給し、その生産で日本経済は息を吹き返した(朝鮮特需)。(217P)
124. 「もはや戦後ではない」といわれるようになった。→ この後に次の一文を追加。一方、ソ連を理想とする共産主義も進歩的な思想として労働者や学生、知識人を魅了するようになった。(219P)
125. これに対して安保条約の改定に反対する運動がおこった。→ これに対して学生や労働者を中心に安保条約の改定を日米軍事同盟の強化になるとして反対する運動が起こった。(219P)
126. 自由主義陣営 → 資本主義陣営 (220P)
127. 高速道路や新幹線が整備され、→ 高速道路や新幹線の建設も始まり、(220P)
128. 日中共同声明に調印し、両国の国交が樹立された。→ 日中共同声明に調印し、両国の国交が正常化された。(221P)
- ※ 申請図書は扶桑社版とまったく同じだが、「不正確である」という検定意見で修正。
129. 共産主義陣営 → 共産主義体制 (224P)
130. 共産主義陣営の崩壊によって、世界規模の戦争の危機は去ったが、一部に共産主義の国家が残り、また民族や宗教の対立をもとにした地域紛争もなくなりそうにもない。→ 共産主義体制の崩壊によって、世界規模の戦争の危機は去ったが、一部の協調的でない国家が残り、また民族や宗教の対立をもとになった地域紛争やテロ事件も続いている。(223P)
131. 前記 126 の文の後に改行して以下を追加。一方、インターネットの普及により地球上の時間的距離は一気に短縮され、大量の情報を簡単に交換できるようになったことが世界を大きく変えている。豊かさとはひきかえに地球全体で自然環境が大きく崩れはじめていることも心配だ。(223P)
132. どちらも君主としての強い自覚によってなされた行動だった。→ 削除 (226P)
133. …歩まれた生涯だった。→…歩まれた生涯であった。(226P)

七、単純な修正(「,」をとる又はつける、漢字をかなに又はかなを漢字になど)

1. 神武天皇の東征伝承 → 神武天皇と東征伝承 (31P)

2. 新羅は、任那をおびやかすようになった。→新羅は任那をおびやかすようになった。(33 P)
3. 東アジアで、中国の王朝が定めた…→東アジアで中国の王朝が定めた…(39 P)
4. 二つの歴史書は、天皇が日本を治めるいわれを述べたもの…→二つの歴史書は、天皇が日本をおさめるいわれを述べたもの…(46 P)
5. …皇族などをむかえ、→…皇族などを迎え、(69 P)
6. 戦いがおこった(平治の乱)→戦いが起こり(平治の乱)(66 P)
7. (小見出し) 鎌倉幕府のおとろえ→鎌倉幕府の衰え(75 P)
8. 武家の実力を生かすしくみ…→武家の実力をいかすしくみ…(77 P)
9. まき絵→蒔絵(79 P)(111P)
10. 高利貸を営む…→高利貸をいとなむ…(80 P)
11. なかでも細川氏と…→中でも細川氏と…(86 P)
12. 将軍の権威はおとろえた。→将軍の権威は衰えた。(86 P)
13. 3つの勢力→三つの勢力(87 P)
14. 日本にやって来た。→日本にやってきた。(92 P)
15. 利益を重視し、→利益を重視して、(97 P)
16. 約100年ぶりに…→約百年ぶりに…(97 P)
17. 徳川家康は貿易を奨励し、→徳川家康は、貿易を奨励し、(104P)
18. 幕府は、日本戦の渡航にも…→幕府は日本戦の渡航にも…
19. …その非をうったえた。→…その非を訴えた。(109P)
20. 農地の拡大に努め、→農地の拡大につとめ、(110P)
21. 暴動は1日で鎮圧されたが、→暴動は一日で鎮圧されたが、(119P)
22. 特に皇室の…→とくに皇室の…(124P)
23. 『解体新書』を著した。→『解体新書』をあらわした。(124P)
24. 半年後にやって来るペリー…→半年後にやってくるペリー…(136P)
25. 日米和親条約に基づき…→日米和親条約にもとづき…(137P)
26. 京都の朝廷は、にわかにな…→京都の朝廷はにわかにな…(137P)
27. 薩長同盟を結び、→薩長同盟を結ばせ、(140P)
28. 第一次世界大戦が始まるころには、→第一次世界大戦が始まる頃には、(148P)
29. おこったできごと→起こった出来事(148P)
30. じゅうぶん認識する→十分認識する(148P)
31. あやうくなった。→危うくなった。(148P)
32. 江戸時代を通じて武家社会という…→江戸時代を通じて、武家社会という…(148P)
33. 特に薩摩と…→とくに薩摩と…。(148P)
34. 住民にあたえたりする…→住民に与えたりする…(150P)
35. 紛争がたびたびおこった。→紛争がたびたび起こった。(150P)
36. …盛り上がる中で、→…盛り上がるなかで、(158P)
37. 伊藤は他の元老たちと…→伊藤はほかの元老たちと…(162P)
38. 意味をもってきた。→意味を持ってきた。(163P)
39. 注意を払わなければ…→注意をはらわなければ…(163P)
40. …ひたひたとせまってきた。→…ひたひたと迫ってきた。(163P)
41. 視察団がやって来て、→視察団がやってきて、(163P)
42. 軍隊の訓練・規律に…→軍隊の規律・訓練に…(164P)
43. この間、日本軍は…→この間、日本軍は…(169P)
44. 命中率を高めていた。→命中率が高かった。(169P)

45. 世界の海戦史に残る驚異的な勝利を収めた。→ 世界の海戦史に残る驚異的な勝利をおさめた。
(169P)
46. 日本に最も…→ 日本にもっとも… (169P)
47. その中には、7歳の誕生日を…→ その中には7歳の誕生日を… (176P)
48. 梅子は女子英学塾(現在の津田塾大学)を開設する。→ 梅子は女子英語塾(現在の津田塾大学)を開設する。(176P)
- ※ 女子英学塾は正しく、女子英語塾は誤り。扶桑社版の写し間違いであるが、文科省も検定でチェックしていない。
49. 梅子は、単に英語を…→ 梅子は単に英語を… (176P)
50. 一緒にすててはいけない→ 一緒に捨ててはいけない (176P)
51. 一方、日本軍は…→ いっぽう、日本軍は… (199P)
52. 一方、1933年ごろから、→ いっぽう、1933年ごろから、(200P)
53. 衝突するのはさけられなかった。→ 衝突するのは避けられなかった。(201P)
54. 人道問題として扱い、→ 人道問題としてあつかい、(203P)
55. …遅れたのは、卑劣な「だまし討ち」→ …遅れたのは卑劣な「だまし討ち」(204P)
56. 神社参拝などをしたこと…→ 神社参拝を強いたこと… (207P)
57. …しばしばおきた。→ …しばしば起きた。(207P)
58. 日本軍の兵士の中には、→ 日本軍の将兵のなかには、(207P)
59. …困難の中、→ …困難のなか、(209P)
60. GHQは1946年2月、わずか1週間で…→ GHQは1946(昭和21)年2月、わずか1週間で… (213P)
61. 反対する運動がおこった。→ 反対する運動が起こった。(219P)
62. 日本経済は、1960(昭和35)年…→ 日本経済は1960(昭和35)年… (220P)

八、申請図書が扶桑社版と同じような記述なのに検定意見で修正したもの

1. まったく同じもの

「六」の7、29、31、34、62、107、108、125

2. ほとんど同じもの

「六」の8、23、33、36、83、91、94

※この他に、109に示したように、ハーグ陸戦法規締結の年の間違いなどが扶桑社版にある。

※本文中、29ページが新設か全面または大幅改訂(約24%)である。これに新コラムと全面改訂・大幅改訂したコラム、導入や章の扉の改訂をくわえても変わったのは20～25%である。